

令和元年6月1日

溶融塩委員会委員各位

令和元年度「溶融塩賞」受賞候補者の推薦のお願い（再募集）

電気化学会溶融塩委員会
委員長 水畑 穰

拝 啓

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当委員会の活動にご協力、ご高配を賜りまして誠に有難うございます。さて、昭和61年度より設置されました「溶融塩賞」※の候補者につきまして、4月22日にご案内申し上げましたが、候補者の応募が締切までございませんでしたので募集期間を延長し、改めて会員各位に広く候補者のご推挙をお願い致したく存じます。締切を6月17日必着として事務局宛に文書にてご推挙の旨賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

1. 受賞対象について

化学、冶金、窯業など主に高温を取り扱う分野全般を対象とし、電気化学会誌、大会、溶融塩委員会、溶融塩化学討論会およびこれに準ずる会にて発表された研究および研究者、あるいは関連する分野の発展に顕著な業績をあげた研究者等を対象とする。

2. 件数について

毎年1~2件とする。

（原則として1名または学界・産業界から各1名）

3. 候補者の推薦期限について

令和元年6月17日（月）必着

4. 推薦書の形式

別紙テンプレートの通り。枚数は自由とする。

5. 推薦書の送付先

〒563-8577 大阪府池田市緑丘1丁目8-31
国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センター
電池技術研究部門内 溶融塩委員会事務局
松本 一

TEL:072-751-9426, FAX:072-751-8564

E-mail: mscj@electrochem.jp

推薦書、添付ファイル等いずれも電子ファイルにて上記メールアドレスに送付いただいてもかまいません。

【溶融塩賞について】

昭和58年(1983年)、溶融塩委員会設立25周年の記念事業の一つとして第1回の「溶融塩化学および技術に関する国際会議(International Conference on Molten Salt Chemistry and Technology)」が、当時、溶融塩委員会委員長であった渡邊信淳・京都大学教授を組織委員長として、京都国際会議場にて開催されました。この国際会議は、世界各国から約300名余の参加者を得て、大成功のうちに閉幕となりました。この国際会議の成功を受け、また折しも昭和60年10月11日に設立以来100回目の委員会である第100回記念委員会が公開で京都で開催されたことを記念して、溶融塩賞が制定され、1986年(昭和61年)から毎年授賞が行われています。

選考基準は「化学、冶金、窯業など主に高温を取り扱う分野全般を対象となっており、原則として1名または学界・産業界から各1名が選考されています。

【過去の受賞者】

以下に掲載しております。

<http://msc.electrochem.jp/prize.html>